提言

あなたは素敵な先生ですか？

まちづくりNPO　特定非営利活動法人
おいしいローカル線をつくる会理事長

（前いすみ鉄道社長）　鳥塚（とりづか）　亮（あきら）

学校の先生や教育関係の皆様方は、日々大変なお仕事に従事されていると思います。私は最近いろいろなところで学校の先生方とお話をさせていただく機会がありますが、そこで気付くのは、なかなか学校運営がうまくいっていないのではないかということと、本当に素敵な先生がいるのだろうかということです。

運営がうまくいってないと言えば田舎の鉄道も同じで、どこも四苦八苦していますが、なぜ今、そんなローカル鉄道が必要かという話になると、建設当初の役割は終了したから要らないとか、赤字だから要らないという議論になります。赤字だから要らないという話になれば、極論を言えば日本の田舎は皆赤字ですし、農村や漁村もすでに役割を終了しているところがほとんどと言われていますから、みんな要らなくなってしまいます。今、必要なのはそういう議論ではなくて、「何とかしなければならない」ということではないかと思います。

では、ローカル鉄道を何とかしなければならないときに考えなければいけないのは、今までのやり方にこだわらないということです。なぜなら、今までのやり方でずっとやってきて、その結果として今ダメになっているわけですから、前例にこだわっていては解決しないのは明らかです。その前例というのは、ローカル線の存続運動です。「乗って残そう」「地域の足を守ろう」という長年全国的に行われてきた鉄道存続運動は、皆様方もご記憶にあると思いますが、結論から申し上げてその方法で残ったローカル線はありません。その方法でやってきて、思った結果が出ていないのですから、私はその方法はやらない。つまり右肩下がりの地域輸送に頼っていては、いすみ鉄道も廃止になることは目に見えていましたので、全く別の観点から「地域にとってなくてはならない存在」になれるように、新しい需要を開拓してきたのです。新しい需要を開拓する。眠っている需要を掘り起こす。いすみ鉄道で言うと、これは「観光鉄道化」ということになります。

今から10年前の就任当初に千葉県の房総半島の山の中で「観光鉄道」という話をしたときに、「こんなところで何が観光鉄道だ？」とよく言われましたが、それは顕在需要の話であって、私が開拓したり掘り起こしたりする需要は潜在需要。つまり、その時点で目に見えていない需要を新しく作り出すことでした。

当時のいすみ鉄道は春の菜の花シーズンでも列車はガラガラで、誰もお客様など乗っていませんでしたが、そこに眠っていた需要を掘り起こしてくれたのが皆様よくご存じの「ムーミン列車」であり、沿線の田園風景にマッチする「昭和の国鉄型列車」です。これにより、今までガラガラだった鉄道が満員になり、沿線には観光客があふれ、無名だった「いすみ」という名前が全国区になりました。

では、なぜこういうことができたのか。それは私が鉄道が大好きだからです。私が社長時代に採用した運転士たちも、皆、子供のころから鉄道の運転士に憧れていた人たちです。でも、私の年代は国鉄改革というのがありまして、合

理化と人減らしで何万人も首を切らなければならない時代でしたから、新規採用などあるはずもなく、学校を卒業したときに鉄道に入ることができず、別の道を歩んで、すでにおじさんになっていた人たちが募集の呼びかけに集まってきてくれたのです。だから、彼らはただ単に列車の運転士をするだけではなく、小さな子供が乗っていれば一緒に写真を撮ったり、観光客が乗っていれば景色の良いところで列車の速度を落としてアナウンスするなど、各自が自発的にそういう行動をしてくれています。それは何かというと、「思い」であり、「心」なのだと思います。

同じ仕事をするにしても「思いのある人」「心のある人」と「そうでない人」では結果が違ってきます。列車を安全、正確に運行するということは当然同じ結果でなければなりませんが、お客様に喜んでいただけるという点では結果は違ってきます。「仕事なんだからきちんと運転さえしていれば別に喜んでもらわなくてもよいでしょう。」そう思われる方もいらっしゃると思いますが、観光鉄道としてのいすみ鉄道の需要はわざわざ乗りに来ていただくことですから、やはりお客様に喜んでいただき、楽しい思い出を持って帰っていただくことが大切なのです。

では、なぜいすみ鉄道の運転士が「思い」や「心」を持っているのかというと、その理由は彼らはどうしても運転士になりたかった人たちで、おじさんになってやっとその夢をかなえることができた人たちだからです。一度はあきらめた夢を大人になってかなえることができたから、一生懸命なんです。一生懸命運転士として乗務し、列車の運転をして、お客様に接客サービスをする。その彼らの一生懸命の大元にあるのは、実は「恩返し」なのです。

子供のころの夢がかなって鉄道の運転士になれた彼らには、それぞれに子供のころ「大きくなったら電車の運転士になりたい。」と思わせてくれた鉄道マンがいたはずです。きびきびと乗務する姿を見て、子供ながらに目を輝かせて「大きくなったら僕も電車の運転士になりたい。」と思わせてくれた大人がいたんですね。だから、自分が夢をかなえて運転士になったら、今度は自分が働く姿を通して、いろんな人たちに夢を持ってもらいたい。小さな子供には自分の姿を見せて「大きくなったら僕も運転士になる。」と思ってもらうことで、自分にモチベーションを与えてくれたかつての鉄道マンに恩返しをする。そうすることで、未来へつながっていくと信じているからなんです。そして、いすみ鉄道は今までとは全く違うローカル鉄道に生まれ変わることができたのです。

学校の先生も同じですよね。

「好きじゃないけど仕事だから仕方なく先生をやっている」などという人はいないはずです。皆さんにも、子供のころ憧れた先生が必ずいらっしゃって、その先生の姿を見ながら、「私は大きくなったら学校の先生になりたい。」とモチベーションを与えてもらったはずで、それが原動力となって難しい試験にもチャレンジされてきたのではないでしょうか。だとすれば、今、念願かなって先生をされていらっしゃる皆様方がやらなければならないことは何か。きちんと授業を行うこと、生徒指導を行うことはもちろんですが、そのうえで、目の前の子どもたちに「大きくなったら私も先生になりたい。」という夢を与えることではないでしょうか。

そうすることで、自分にモチベーションを与えてくれたかつての先生に恩返しができる。そういう先生がたくさん増えたら、きっと学校って、今よりももっと素晴らしい場所になるのではないでしょうか。